

出張報告 トロント大学, ロチェスター大学, DASER 2 Summit

情報サービス課相互利用係 小坂麻衣子
情報システム課システム管理係 鈴木雅子

国立情報学研究所の最先端学術情報基盤整備事業等 (CSI) に係る機関リポジトリに関する調査・研究の一環として、平成 17 年 12 月 1 日 (木) にカナダのトロント大学図書館 *1)、12 月 2 日 (金) に米国のロチェスター大学図書館 *2) を訪問し、12 月 3 日 (土) ~ 4 日 (日) に米国メリーランド大学構内にて開催された Digital Archives for Science & Engineering Resources (DASER) 2 Summit *3) に参加しました。

機関リポジトリとは、北海道大学でも「北海道大学学術成果コレクション: HUSCAP *4)」として構築をおこなっている、機関の構成員が執筆した学術成果の原稿本体を大切に保存し、web で公開することにより論文等の可視性を高めることを主眼としたものです。

北米では日本に先行して多くの大学で図書館が中心となって HUSCAP のような事業を行っていますが、わけても、トロント大学図書館、ロチェスター大学図書館は、電子ジャーナルと機関リポジトリに収録された論文を一括検索できるシステム開発のプロジェクトに参加し、大変活躍しています。それぞれ、担当者の方に、その動向についてお聞きしました。なお、北大図書館でもこれらの一括検索システムに HUSCAP 収録論文が対象となるよう開発元に依頼済みです。また、例えば、リンクリゾルバにも対応できないか等、さらに収録論文の可視性を向上させる方法について調査を続けています。



(トロント・ロチェスター間の国際便)

トロント大学図書館、ロチェスター大学図書館の担当者とは、機関リポジトリ運営の方法、実際の研究者とのやりとり、現在の問題点などの情報交換をおこないました。トロント大学図書館でも、ロチェスター大学図書館でも、研究者の論文等を広く公開する受け皿となっていることに誇りを持って事業を進めていると感じました。

DASER 2 Summit では、オープンアクセス（Open Access）や機関リポジトリ（Institutional Repositories）に関する 15 件の発表があり、北米を中心とした各国から約 50 名の図書館員、学会・出版関係者、研究者等が集まり、活発な議論と情報交換が行われました。

本学の HUSCAP の取り組みを進展させていくにあたっては、北大で産み出されるより多くの研究・教育成果（コンテンツ）を掲載・公開していくことが、目下の大きな課題の一つとなっています。この課題を中心に、歩を進めている北米での機関リポジトリを巡る状況を知ることが、同会議に参加した最大の目的でした。

機関リポジトリの運用についての事例報告としては、ペンシルベニア大学やバージニア大学の図書館から発表がありました。これらの大学では、先に訪問した両大学でも感じたことですが、掲載対象となる論文情報の収集作業や機関リポジトリ普及のための広報活動については共通する部分も多く感じられた一方、専門の主題分野を持つサブジェクトライブラリアン（Subject



Librarians) がコンテンツの掲載においても活躍しているとの点が印象的でした。また、コンテンツを拡充するためには、研究者が進んで機関リポジトリに論文を掲載したくなるような環境作りが重要であることを感じました。

この北米出張により、海外の関係者との交流・情報交換を通じて、HUSCAP のこれまでの取り組みや方向性について広い視点から検討する機会を得られたことは非常に有意義な経験であり、今後の活動に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、今回の出張にあたって、国立情報学研究所ならびに附属図書館の皆様から多大なご配慮をいただいたことに感謝いたします。

-
- *1) <http://main.library.utoronto.ca/>
T-Space <https://tspace.library.utoronto.ca/>
 - *2) <http://www.library.rochester.edu/>
UR-Research <https://dspace.lib.rochester.edu/index.jsp>
 - *3) <http://www.daser.org/program.html>
 - *4) HUSCAP <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/index.ja.jsp>